

慢性咳嗽患者の原因疾患と慢性咳嗽における閉塞性睡眠時無呼吸症候群の関与についての検討

横堀 直子, 長谷川瑞江, 岡林 麻子, 桂 秀樹

東京女子医科大学八千代医療センター 呼吸器内科

【背景】近年, 閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (Obstructive sleep apnea syndrome : OSAS) を原因とする慢性咳嗽の患者の報告が増加してきている。本邦の咳嗽に関するガイドラインでは, まだOSASは慢性咳嗽の原因疾患としては挙げられていないが, 慢性咳嗽患者におけるOSASの合併は, 33~68%と報告されている。今回, 咳嗽を主訴として受診した慢性咳嗽患者において, その原因疾患について検討し, 慢性咳嗽におけるOSASの合併頻度について検討した。

【方法】2012年7月から2015年7月の間に, 咳嗽を主訴に受診した患者で, 咳嗽が8週以上持続し, 胸部x線所見正常, 肺機能検査所見正常, 肺に器質的疾患のない患者において, その原因疾患について検討した。

【結果】35名が上記慢性咳嗽患者に該当した。慢性咳嗽の原因疾患について, 咳喘息(CVA)が19%と最も多く, 次に感染後咳嗽の遷延が10%と多かった。次に, OSAS, CVA+胃食道逆流症 (GERD), CVA+OSAS, GERD+OSASが9%であった。慢性咳嗽の原因が単一因子である患者は52%, 2因子である患者は34%, 3因子である患者は12%であった。また, 慢性咳嗽にOSASを合併する患者は, 34%であった。

【結語】OSAS合併慢性咳嗽患者は, これまでの報告と同様に高く, 慢性咳嗽の原因疾患として重要であると思われた。慢性咳嗽患者の約半数は多因子の原因疾患を有しており, 咳嗽の早期改善のためには, 関与する原因疾患を把握し各疾患に対する治療をすることが重要であると考えられた。

【キーワード】慢性咳嗽, 閉塞性睡眠時無呼吸症候群